

平成 30 年 3 月 14 日
日本政策金融公庫
福島支店

本場アルゼンチンワインを“いわき”から ～Uターンし新たに就農する農業女子の夢を支援～

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）福島支店農林水産事業は、いわき市でブドウ等の生産を開始する佐藤有希恵さんに対し、事業立ち上げに必要なブドウ棚・ハウス等取得にかかる資金として、青年等就農資金 900 万円を融資しました。

《ポイント》

○ “Uターン”農業女子が、本場アルゼンチンワイン生産へ挑戦

いわき市出身の佐藤さんは、東京での会社員時代に旅行で訪れたアルゼンチンのワインの美味しさに魅了され、いつか自分の手でアルゼンチンワインを生産したいという夢を抱くようになりました。その後も、その夢を実現したいとの思いは消えることなく、また東日本大震災で被災した地元“いわき”の復興・創生ためにとの強い思いもあり、平成 27 年に会社を辞め、再び生まれ育ったいわきに戻って、新たに就農することを決意しました。平成 28 年から県内の農業者のもとで栽培技術・経営ノウハウに関する研修を重ね、「ふくしま農業女子ネットワーク」（※）にも参画して他の農業者との交流も深めてきました。

平成 29 年 11 月には、いわき市の認定新規就農者となり、平成 30 年からアルゼンチンワインの原料となるマルベック（ブドウ品種）等の生産を開始し、平成 32 年からワインの生産・販売開始を目指しています。

夢の実現に向けて佐藤さんは、「マルベックやマルベックの関連品種のみに限定した赤ワイン専門のワイナリーを作りたい。」と話しています。

○ 日本公庫・福島県・福島県中小企業団体中央会が連携して支援

日本公庫は、佐藤さんの生産技術の習得状況や、農業経営への意欲の高さなどから計画達成の見通しが高いことを評価し、事業立ち上げに必要なブドウ棚・ハウス等に取得かかる資金の融資を実施しました。

今後、5年間で経営を軌道に乗せる計画を立てている佐藤さんに対し、日本公庫は、営農指導・販路開拓支援としていわき農林事務所（福島県）やふくしま地域産業 6 次化サポートセンター（福島県中小企業団体中央会）等の関係機関と連携しながら、新たな担い手としての育成・定着を後押しします。

